

地域の社会関係の豊かさを測る—社会関係資本指標の研究

社会関係の豊かな地域ほど住民の健康度が高いという仮説がある。しかし地域の社会関係を測定する方法は確立しておらず、このことが研究を妨げてきた。三重県志摩市26地区に居住する12197名のデータをもとに、各地区の社会関係・協調行動・投票行動・人口特性を分析した結果、社会関係の豊かさに関する指標は一つに要約できないことが分かった。この基礎研究は、社会関係を複数のものさしで評価する必要性を示しており、健康に結びつく関係性を特定することが課題として指摘された。

(連絡先) 埴淵 知哉 (はにぶち ともや)
日本学術振興会特別研究員 PD / 立命館大学
ハーバード公衆衛生大学院客員研究員
E-mail: info@hanibuchi.com

背景 社会関係資本 (social capital) は、コミュニティにおける関係性の豊かさを総称する鍵概念として注目を集めている。しかし、地域の社会関係資本を測定するための指標は、実際のところ地域のどのような要素を反映したものなのか、明らかではない。そこで、アンケート調査から測定された社会関係資本指標と、各種の地域指標との関連を検討した。

方法 AGES プロジェクトの調査設計をベースに郵送アンケート調査を実施した。2007年10～11月にかけて、三重県志摩市に居住する60歳以上の住民12197名 (回収率59.6%) から回答を得た。「信頼感」をはじめとする7つの社会関係資本指標と、地域の協調行動、選挙の投票率、地域の人口構成・社会経済的特性との関連性を探った。

結果 社会関係資本のうち、認知的指標 (信頼感など) と構造的指標 (組織参加など) の間に強い相関はみられなかった。そして、協調行動を示す指標のうち、「座談会参加」は構造的指標、逆に「ボランティア登録」は認知的指標との相関を示し、投票率は構造的指標とのみ有意に相関していた。他にも人口密度や居住年数といった各種の地域指標が、社会関係資本指標と関連をもつことが示された。

結論 今後の研究では、社会関係資本の多元的な性質を考慮しながら、健康とより深く関連する次元を特定すること、さらに、各種の地域特性や個人属性との交互作用についても研究を進める必要性が指摘された。

(出典)

埴淵知哉・平井 寛・近藤克則・前田小百合・相田 潤・市田行信 2009. 地域レベルのソーシャル・キャピタル指標に関する研究. 厚生指標 56(1): 26-32.

※本論文は、第12回川井記念賞 (財団法人厚生統計協会) を受賞しました。